

## 構造家はパーソナリティ 松本照夫

朝倉幸子◎TH-1  
illustration:Taco

### ■独学

構造家と松本設計ホールディングス社長の二つの顔をもつ松本照夫さんは、1953年生まれ。昭和、平成、令和と仕事人生をつくり上げて来た。小学生のころから「大きくなったら建設会社をやりたい」と思っていたという早熟。高校生のころから親戚の工務店で修行していたという。職人志向だったが、丸太足場から覗く（高所恐怖症）と設計者が偉そうに見えた。紹介者がいて渡に船とばかりに設計事務所就職したが、そこは構造設計事務所だったからわけのわからないままに構造設計者の道へ入った次第。優秀な頭と努力を惜しまない松本青年は、電卓と計算尺を片手に構造設計を独学で身につけたという。周りを見ると皆大学に行っていると気がついて、大学二部に進む。建築系ではなくて東京経済大学へ。丁稚奉公をしながらも、起業志向はしっかり持ち続けていたようです。

### ■独自の路線

スキルが身につけてくると、所長に交渉して先端のパソコンを入れてもらい、猛烈に仕事をこなした。松本さんに直接頼まれる仕事が増えてきて、満を持して独立することにしたのだ。当時、東京近郊の建売市場は凄まじい勢いで伸びていた。松本さんが今も地盤としている多摩地区も凄まじい勢いだった。構造設計だけでなく計画段階から設計依頼が入るようになる。「建売りのチラシ広告で学んで、住宅を設計していた」と笑う。利益はすべて機械化に注ぎ込んで、会社を発展させる要としたのです。取引先の設計事務

所や建設会社、不動産会社からある程度の規模をもつ施設などの設計も頼まれるようになる。RC造、S造、大規模木造ではツーバイフォーの設計もあった。工場製作ができて工期短縮になりコストダウンに有効な工法なのだ。設計技術者の確保と依頼会社からは技術指導も任されるようになった。その人材が社員となり、会社を充実させてきたのでした。

### ■プロへのサポート！

国立市に本社を置いている「松本設計ホールディングス」は、住宅設計・非住宅設計・構造設計・住宅性能表示や長期優良住宅申請と、建築設計全般に仕事内容は幅広い。松本さんが会社の一番の売りは、プロへのサポート業務であるという。大連に建築設計のCAD会社と、福祉関係建築許認可を生業とするクリックを経営しているのだ。

現役の松本照夫さんは、福祉施設の建築には不可欠の近隣住民への説明会にも顔を出す。「次世代に任せよう」の精神で、スタッフを積極的に前面に出すのだが「玉砕して帰ってくる」からだ。自社や大手設計事務所やゼネコンの若手に身をもって対応を伝える。プロをサポートする役目を担っていると自らを位置付けている。そんな業界のプロを育てる中でも「笑いが絶えない集団をつくりたい!」。それを実践する姿が、自社提供のラジオ番組でリスナーに語りかけている松本照夫さんにありました。[エフエムたちかわ]で毎週日曜日に(21:30分~)自らがパーソナリティをしているのだ。番組は「良い家・良い音楽」。軽快な語り口で、建築についてのリスナーの疑問に答えたり、ゲストと建築に関する話をやりとりしたりする。住宅を建てたい人や建築に興味のある人にとっては、よき道標となっている番組なのです。

ビジネスを含めて社会貢献が趣味のような松本さんだが、一つ本当の趣味があるという。それは日本刀の収集である。甲冑会での厳しい顔と、微笑みの絶えない建築伝道師の顔を両立させているのが、照ちゃんこと松本照夫さんです。

